

挑戦

相洋中学校 三年 田中 心咲

皆さんは失敗を恐れたり、自分に自信が持てずに挑戦すらしないで後悔をした、という経験はありますか？

私には数えきれないほどあります。

昔、私はピアノや英会話を習っていました。しかし、ピアノ教室では同級生たちと年が一つ離れていたためなかなか馴染めず、友達ができませんでした。その頃の私はピアノもへたくそな方で全然楽しめず、二、三年で辞めてしまいました。

英会話教室でも年が離れていたたり、私が人見知りだったりして友達ができず、その頃は英語が得意な方ではなかったということもあり、私は孤独感と劣等感を感じ、英会話が嫌いになり、辞めてしまいました。

中学三年生になった今、音楽に興味を持ったり、英語の勉強も必要になったりして、あの時にピアノや英会話を続けていれば、ピアノも弾けて、英語もペラペラになっていたかもしれないと思います。とても後悔しました。あの時に、勇気を出して友達を作っていたら、大変でも頑張つて続ければ上手になるとわかっていたら、きっと、今になってこんなに悔しい思いはしなかったと思います。

昔の私は、いわゆる「臆病者」でした。失敗を恐れて何もできませんでした。

小学校六年生の頃、臆病な自分を変えたいと思い、私立の中学校である本校を受験しました。最初は新しい環境で、心配で仕方ありませんでしたが、塾の友達もいたためすぐに友達がたくさんできました。しかし、自分から積極的に話すことはできなかったため、塾の友達がいなければ、新しい友達ができなかったのではないかと感じました。

また、一年生の頃はサッカー部に入りましたが、部員の数が少なく十一人もいなかったため、チームで協力することが難しく、部活動の楽しさをあまり実感できなかったため、私は部活を一年で辞めてしまいました。

私立の中学校に行き、過去の自分と決別したと思い込んでいただけで、自分から話しかけられずに誰かに話しかけられないと話せないままの自分と、また、誰かに助けてもらわないと何もできない自分と、全く変わっていないことに気づき、そんな自分が嫌いになりました。そんなことを考えていた二年生の初めの頃に、私はある一本の動画をYouTubeで見つけました。それはある人の、コロナで卒業式ができなかった学生へメッセージを送るという内容の動画でした。そのメッセージの中に私の心に響いた言葉があります。「人生は短距離

走ではなくて長距離走」といった言葉です。この言葉には短距離走で転んでしまったら致命的だけど、長距離走なら転んでしまっても後で追い上げることができるし、転んだことや追いついていく様はドラマとなって感動を生む、といった意味が込められています。たとえ失敗しても、挑戦したという事実と経験は、自分の人生に残り続けるから挑戦をしよう、失敗することは損ではなく得であり、挑戦することを恐れてはいけないのだ、ということを実感させられました。

私はこの言葉を人生の教訓として生きようと思いました。新しいことに挑戦しようと思った私は、二年生に上がる際、空手道部に入部し、礼儀を知り、筋肉をつけようと決心しました。途中から入部するため、みんなに追いついていけるか心配でしたが、たとえどんなことがあろうと彼の言葉を思い出し、続けようと思いました。いろいろな人と関わり、分からないことがあれば先輩や同級生、先生などに質問し、様々なことを学びました。そうするうちに、いろいろな方に認められ、空手もキタヤやかながらも成長していることを実感しました。サッカー部で培った蹴りの力などがあり、私は蹴りが上手だと皆様に褒めていただき、やはり挑戦したことは無駄にはならないと実感させられました。

そんな私の実体験より伝えたいことは二つです。
たくさん、いろいろなことに挑戦してください。そして、失敗を失敗と思わず、次に生かしていただく下さい。

ご清聴ありがとうございました。